

シンギュラリティ、 Xデーは 2035年!? 未知なる近未来に 思いを馳せて



21世紀に入り、紛れもなく世界は変革しました。そう、インターネットとコンピュータテクノロジーがもたらしたIT革命です。現在急速に、「第4次産業革命」が進んでいます。あらゆるものがインターネットにつながり（Internet of Things = IoT）、人工知能（AI）で動くロボット社会がまさに現実のものになろうとしています。その一つの到達点、シンギュラリティ（人工知能が人間の知能を凌駕する）のXデーは20年後の2035年という説さえあります。何が変わるのか、わたしたちは今後どう歩んでいくべきなのか、真剣に考えるべき正念場です。

このたび、いつも遊文舎の業務に協力いただいている富士ゼロックスの杉田様にスペシャルレポートを寄稿いただくことができました。皆様方の今後の指針の一助としてお役に立てれば幸いです。

（編集部）

第四次産業革命に対し、今、日本の中小企業が考えるべきこと

その1

第三次も第四次も基本は「情報通信革命」

18世紀の第一次産業革命は、水力／蒸気といったエネルギー革命、19世紀の第二次はベルトコンベアーや工作機械による大量生産革命。これに対して第三次は情報流通革命。大量生産と均質化が進む中で、「情報」そのものが差別化価値を産む源泉となる世界。インターネットや検索エンジン等による情報の飛躍的な流通とアクセスが進み、多様なニーズにマッチする商品・サービスが地域や時間を越えて認知・流通することになりました。

さて、次なる第四次は、すべてのモノがインターネットにつながる事（IoT）と、それにより蓄積される膨大なビッグデータを解析し、学び、推測する人口知能（AI）による「価値創造革命」です（図1）。AIの機能は大きく二つあり、雑多なビッグデータから「意味を見出し推測する」機能と「自ら学習し適応する」機能です。これまでの商品開発は、お客様の声や保守

情報等を分析して行いますが、第四次では、AIがそういう情報をリアルタイムで、解析・学習・推測し、新たな価値創りに貢献していきます。

では、IoTとAIの組み合わせで商品・サービスはどう変わるのでしょうか。大きくいって①カスタマイズ化と②リアルタイム化だと考えます。

①カスタマイズ化（パーソナライズ化）

香水に例えると、AIが「私」の嗜好や使用するTPOを解析し、「私の香水」の調合指示を出すような事です。利用が増えるほど学習効果が働き、さらに適切な配合を行うと思います。これには一個づつ違う商品を作る生産プロセスが重要であり、大規模工場は不要です。

②リアルタイム化

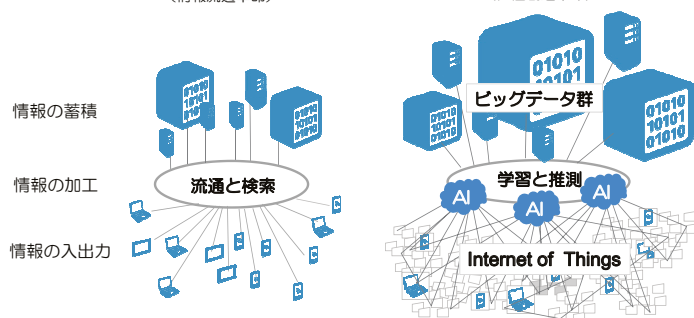
これは、モノに仕込まれたセンサーとAIの対話による商品・サービス価値の創造です。今でも最新エアコンは体温や位置などを解析して快適な空間を演出し、最新の車は車間距離やブレーキのタイミングなどを解析して安全運転を支援します。第四次では、商品単位を超えて、家とか旅行とかの「空間全体」での価値創造に向かいます。たとえば、家自体が様々なセンサーを持ちIoT化すれば、家族やペットの動きや、機器の使用状況等をリアルタイムで解析し、家が「AI執事」となり、より良い生活創りのリフォーム提案を行う可能性もあります。

そのような変革の中で、中小企業にとっての第四次の機会と脅威はどのようなものなのでしょうか。

（続く）

（富士ゼロックス株式会社 マーケティング部 杉田 晴紀）

図1. 情報通信革命としての第三次と第四次の比較
第三次産業革命 (情報流通革命) 第四次産業革命 (価値創造革命)



スタッフ趣味の スキューバ・ダイビング

～制作課 斉藤八千代編



カメさんとワタシ

趣味の話ということで…私かれこれ20年ほどスキューバ・ダイビングをやっています。

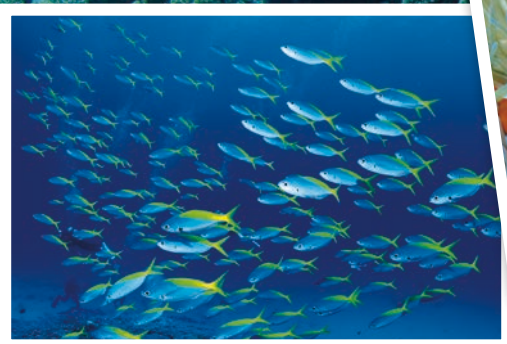
以前は和歌山・四国など近場で毎月のように潜ってました。とれたてピチピチのサカナを食べてるうちに、すっかりサカナ好きになり「アイツうまそ〜！」と思いながら潜ってることもあります。

近頃は年2回オキナワって感じです。離島好きなので、沖縄本島からさらに飛行機や船に乗り継いで、大阪からは1日がかりの島もあります。

小さな島はコンビニがなくて（〇〇商店とか△△スーパーという名の何でも屋さんがあります）ちょっぴり不便なこともあります。時間がゆっくり流れていてノ〜ンビリします。

アイスクリーム片手に夕陽のビーチを散歩するのもイイし、日が沈めば星座がわからないほどドッチャリ星があらわれます。ここ何年か通っている海は水もサンゴも砂もキラキラで凄おくキレイです。

オキナワと言えば、サンゴとキラキラ熱帯魚ってイメージですが、ガンガンに流れる潮にふっとばされないように岩につかまって、イソマグロやロウニンアジの群れが走るのを見たり、ゆるい砂紋がうねる真っ白い砂地の上をひらひら泳いだり、サカナの群れにまかれたりとイロイロです。



ウメイロモドキ



カクレクマノミ



サトウキビ畑とハイビスカス

そしてカメがたくさんいます。今年はなんだか少なめでしたが、前に潜った時は40分ほどの間に10頭以上のカメを見ました。最初は「あ〜っ！ カメ！カメ〜！」って狂喜乱舞。見るたびに「2頭目」、「3頭目…」って数えてるんですが、いっぱい見てるとだんだん慣れてきて、最後は「あ、カメ…」みたいな。そのうち何頭見たのか分からなくなっちゃいました。

前足（手？ ヒレ？）だけ使ってピ〜ラピ〜ラ泳ぐカメは優雅で素敵です。ゆっくりに見えても速いので必死で追いかけてもさっぱり追いつけません。船で移動中に、呼吸をしに上がってくるカメを見ることもあります。海面でぱちぱちしているカメはなんだかカワイイ。

船上からはトビウオを見ることもあります。長いヒレでシュパーっと滑空するんですが、「キミらホンマにサカナなん？」と思うほど長い距離を飛びます。

そんなこんなで、クウ・ネル・モグル・ちょっとノムな日々はウキウキ過ぎていきます。

体力とお金が続くかぎりマダマダ潜りますよ〜 皆さまヨロシク！ にゃはは！

● 編集後記 ●

今回のスタッフ趣味は夏らしくスキューバ・ダイビングです。私は中学生の修学旅行でスキューバ・ダイビングを経験したのですが、海が怖くて深くまで潜ることができませんでした。数年前にも、フィリピンでも挑戦しましたがやはり怖くて（中学生のころよりは深く潜ることができましたが）あまり楽しめなかった過去があります。この筆者のように、スイスイ海に潜れたらとても楽しいだろうなーとうらやましくなりました。

（ばっしー）